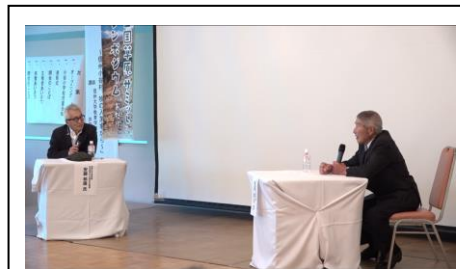


令和6年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	持続可能な草原の維持管理に係る事業		
事業主体 (連絡先)	第14回全国草原サミット・シンポジウム in おたり大会実行委員会 TEL0261-82-2587)		
事業区分	(3) 教育、文化の振興 (5) 環境保全、景観形成		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	4,653,021	円 (うち支援金: 1,015,000	円)

事業内容

シンポジウム: 草原研究者や茅葺き師による基調講演、研究報告、4つの草原に関する分科会及び全体会を実施した。
現地見学会: 小谷の茅場の草原及び茅葺き文化財建造物の現地視察研修を行った。
草原サミット: 草原を持つ全国の自治体の首長等による草原サミットを実施した。



(基調講演)

【

【目標・ねらい】

- ①小谷の草原の特徴を認識する。
- ②全国規模で事例を共有する。
- ③問題解決に向けてのスタート地点とする。
- ④持続可能な草原の維持・管理を目指す。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①基調講演等により小谷の茅の草原が大変希少であることを認識することができた。
- ②分科会において、全国各地の草原の維持管理の事例報告があり、同じ担い手不足や高齢化等同じ悩みを共有できた。
- ③分科会などに先進地の事例を聞くことができ、今後に生かしていけそうな事例を参考に、村関係者により協議をしたい。
- ④火入れなどの草原の維持は、組織体制も含め、継続できる見通しとなった。

今後の取り組み

※自己評価 【 B 】

【理由】

村民、村外を含め、100名を超える人々が一堂に会し、草原の自然、歴史、維持管理の技術をテーマに論議しあえたため。

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。(今後の事業展開、取組の継続に向けた財源確保など)。

草原の維持について、国の補助金を使いながら、維持管理することが可能となった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある